

大分県

(全域)

防虫ネット施設全面被覆による 夏秋ピーマンの安定生産

【問い合わせ先】
農林水産研究指導センター
農業研究部企画指導担当
電話：0974-22-0671

【1. 概要】

- ・夏秋ピーマン栽培で防虫ネットを施設全体に被覆し、タバコガの耕種的防除を実施
- ・大分県内での導入面積は約40ha、普及率は40%
- ・普及促進のため研修資料を作成し、産地毎に講習会を開催(平成27年度5回)

全面展張方式(間口1.8m施設)



図1.防虫ネット被覆施設

防虫ネット被覆でタバコガをシャットアウト!

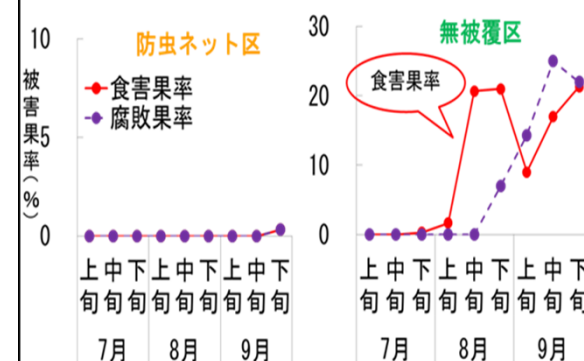


図2. 防虫ネット被覆による
タバコガの被害抑制効果

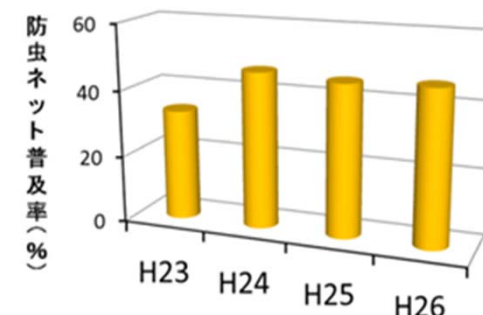


図3. 防虫ネットの普及率

【2. 実践内容】

(1) 取り組みの背景、経緯

- ・県内全域でタバコガの発生による食害が問題となっていた
- ・産地によって施設の形状が異なり、施設全体を被覆する方式を開発
- ・先進的生産者の圃場で、現地実証を行い、防除効果、コスト、作業性から有効性を検証した

(2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

- ・構造を簡素化し、資材コストを下げる工夫をした
- ・設置コストは平成27年/22年比で、約半分まで下げることができた
- ・平成21年度から県単補助事業で設置費を一部助成した
- ・台風などの気象災害時でも速やかに除去することが可能

【3. IPMの推進による効果、得られた経験】

- ・タバコガによる被害をほぼゼロに抑えることができた(図1、2、3)
- ・タバコガを対象とした薬剤散布回数が平均3回削減できた
- ・産地毎に一斉防除に取り組み、タバコガに対する防除意識が高まった
- ・一部ではスワルスキーカブリダニ導入と併用し、総合的防除に取り組んだ